



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：548千円

特別展示「まぼろしの祝祭一天竜・横山の神遊びー」

目的・趣旨

北遠地域に伝来した祭祀芸能とそれに用いられた面、祭具を紹介・展示する。三遠南信の山里に伝えられてきた「冬の祈り」ともいうべき民俗芸能の魅力を本学の学生たちや市民にも見知っていただく機会とした。

日時・場所

令和5年11月16日～令和5年11月22日
静岡文化芸術大学 ギャラリー・講堂

体制

(実施代表者) 文化政策学部 国際文化学科 教授 二本松 康宏
文化政策学部 芸術文化学科 准教授 田中 裕二
客員研究員 宮嶋 隆輔

共催・後援等

(共催) 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会
(後援) 浜松市
(協力) 内山真龍資料館、横山八幡神社

内容

浜松市天竜区横山の横山八幡神社には、かつて「神遊び」と呼ばれる祭礼と芸能が伝えられていた。江戸時代に内山真龍が著した『遠江国風土記伝』によれば、神事は元日から10日まで、あるいは2日から15日まで及んだと記録される。しかし、その祭礼は明治7年に廃絶した。

本事業では、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会および浜松市文化財課と連携し、横山八幡神社に伝来した11の芸能面と祭具、それらの関連パネルを展示・公開した。また、公開講演、ギャラリートーク、神事芸能の実演などもあわせて開催した。

なお、本事業は「地域連携演習」のプログラムも兼ねており、9名の学生が事業の企画・運営に参画している。



結果・成果

公開に先立ち11月16日には関係者による内覧会を催した。浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会、浜松市文化財課、報道機関、学内関係者を含めて約30名が出席。本学から横山俊夫学長、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会からは前嶋功会長、浜松市議会・戸田誠議長、地域連携演習の履修学生らが挨拶し、内覧会の様子は翌日の新聞にも大きく掲載された。開催初日の11月17日には中野祐介・浜松市長が視察に来場。横山学長が案内し、田中裕二准教授と学生が展示の解説にあたった。

開催期間中の土曜日と日曜日には市民向けの講演会やギャラリートークを開催した。11月18日の宮嶋隆輔客員研究員らによる講演と南信州・天龍村の「坂部の冬祭り」の実演披露には約150名の来場があった。翌19日の宮崎千穂准教授によるギャラリートークにも26名の来聴があり、ギャラリーは満席となった。

内覧会を含む7日間の来場者は636人に及んだ。

なお、本事業は教員特別研究「北遠地域に伝わる祭祀芸能の総合的研究」と連動している。今回の展示を通じて、横山町・宝珠院観音堂に祀られる十一面観音像がかつての横山八幡神社の本尊（本地仏）だったことが判明し、学術的にも画期的な成果が得られた。

